

丸 富山木材株式会社 (小池木材前身)設立

富山木材社の清算事務は、順調に推移していたが、最後に残った富山工場・高岡工場の処分が出来なければ、清算会社の資金の目当てがつかなかった。当時は、未だ公然と木材統制が解除になった訳で無く、所詮、潜り、闇商売時代だったので、コソコソした商売が多々、大工場を構えて堂々と経営する時代では無く、尚更、処分は困難であった。私も、当時は未だ地木社清算人の一員であり、清算人全員の意見では、旧地木社の親会社(日本社)の後継者である太平木材(株)に買い取って戴きたいと言う結論であった。私も再三本店と交渉した結果、一、当時はマ指令部より経済力集中排除の指令中であつた。一、全国的に店所を有する企業は、大抵閉鎖機関に指定される可能性がある為、太平木材(株)に於ても直営工場および店所を極力圧縮中であること。一、富山地木社が解散に困るならば、両工場買い取りに要する資金は、一時立替える事は良いが、直営工場とはしない事。等が、本店と協議の結果であつた。

清算委員長野上資良氏の外、他の清算人及び地元木材有志と相計り、太平木材(株)の肩代わりをする事に決定した。そこで、一、富山

に富山木材株式会社を新設して富山工場を引受ける。一、高岡に高岡木材株式会社を新設して高岡工場を引受ける。一、両新設会社の資本金は十九万五千円とする。(二十万円以上は特別許可必要)。

一、両新設会社の工場買取り資金は、貸付金として太平木材富山出張所より立替払する。一、経済力集中排除法の関係もあり、両新設会社の役員は、太平木材の職員を辞任して勤務のこと。等を本店と協議の上決定した。富山木材株式会社設立登記日は、昭和二十二年六月二十四日、

日で、会社の所在地は、富山市木場町一番地、設立当時の役員は、代表取締役石田健政、取締役小池英作、谷村広丸、監査役は針原啓介であつた。その後富山木材(株)が大海の波浪に流されながら現在の小池木材(株)の前進になるとは当時想像もしなかつた。変遷のたいへん激しい時代であつた。将来は何か起こるとは予測していた。時代の流れに順応して行くこと。決して無理をして、流れに逆行することはない。と、言うのが私の方針であつた。否、祖父及び父からの、私の家の伝統かもしれなかつた。

善いものがたり 善い翁記

昭和二十四年一月頃から太平木材自体の体質改善が、職員組合辺りから叫ばれ始めた。個人の素材生産業者の勢力範囲が益々大きくなり、公定価格・配給切符を厳守している国有林及び太平木材の商売は、逆にじり貧となり、果たして、商事会社として継続可能かどうかの極端な意見さえ出る始末であつた。当時富山店所の田島三郎氏が北信越地区代表として本店の職員組合の中央執行委員に選出されていたので、本店及び職員組合幹部活動の様相が、手に取るように解つた。体質改善の為に福岡営林局長出身の中金専務に、勇退願い、後任専務には業界出身の最高峰である上野金太郎常務を登用し、常務の後任には小池善三郎富山出張所長を登用する。富山出張所は田舎だから金額的には小さいが、利益率が全国店所第一位の優秀店であること。進駐軍用材の船積業務は常にデスパッチを受け取っている。福井地震に伴う放出材の処理に当たり優秀な成績を挙げたこと。但し、田舎者であること、学歴が無いことが欠点で、検討を要すること。当社は日本社の直系であり昔のエリートコース一高・東大出身者及び旧御料林・国有林の局長出身者等大勢たむろしていた。そこで、常務取締役にするか、本店営業部長のみにするかが議論されていたらしい。この事は二十四年五月の総会で決議されるという風評が専らであつた。非公式に打診された私は、東京本店に勤務となると、家族一同東京に引越さなければならなかつた。富山に居住して居れば祖父伝来の信用と暖簾と顔で或る程度罷り通るが、見ず知らずの東京に勤務と

なると、如何なものか疑問であつた。当時太平木材の株式は、木材関連会社としては唯一、東京株式市場に上場されていた。サラリーマンとして、上場会社の常務或は営業部長として広い日本中の木材業界を股に掛けて陽の当たる場所で活躍するか、一生の行方を決める、私の運命の分かれ道であつた。毎晩私の寝室の肖像画の父に、無言の相談をして教えを乞うていた。本



(富山木材株式会社 株券)

店営業部長として、どんな方向へ指導するか、これも大きな問題であつた。私はちやうど現在の大手商社の木材部の様な事を、将来像の目標にすべきであると考えていた。市位の闇の木材業者連と競合しては、つまらないと思つていた。勿論、当時は財閥解体で三井、三菱は無く、第一物産・明和産業も資本金十九万五千円位の分割小型商社であつた。太平木材は資本金五千万円位の当時としては上場一流会社であり、私が仮に本店に勤務していたら、現在の大手商社木材部の先鞭をつけていたと思う。ところが、昭和二十四年三月十八日突然マツカサー元帥の名に於て、太平木材は即日解散せよと、発表になつた。全く晴天の白日であつた。